

天草市本渡地区を対象とした近代建築物の悉皆調査の試み

準会員 ○柳瀬仁美\*1 正会員 辻原万規彦\*2

9. 建築歴史・意匠-2. 日本近代建築史 建築歴史・意匠  
本渡市 地図 みくに新聞 フィールド調査 近代化遺産

1. はじめに

熊本県南西部に位置する天草市本渡地区は、天草地域の中心として古くから発達し、戦前に建てられた近代建築物が残されている。文化財保護の観点から、また観光資源の面からも近代建築物の保存と今後の活用について考えることは重要である。

既に、『熊本県の近代化遺産』<sup>1)</sup>で梶原婦人科医院と池崎写真館、『熊本の近代化遺産[下]』<sup>2)</sup>で天草教育会館本館と本渡町上水道唧筒室が紹介されている。しかし、熊本県内の他の地域に比べて、紹介された数が少ない。これは、本渡地区全体を対象として網羅的な調査が行われていないため、近代建築物についての情報が断片的にしか把握されていないためと考えられる。

以上のような背景のもと、本研究では、天草市本渡地区を対象として、できる限り多くの近代建築物を把握するために悉皆調査を行う。次に、文献調査や聞き取り調査により、個々の建築物の情報を収集する。なお、このような方法は他の中小の地方都市の近代建築物の調査にも応用できると考えられる。

2. 調査方法

本研究では、戦前期から昭和30(1955)年頃までに建てられた建築物を調査対象とする。まず、天草市本渡地区の古い地図を収集した(表1)。このうち、昭和11年の地図(表1中の1)に、建築物が密集している「市街地」が明確に記されていたので、調査対象地区とした。次に、平成26(2014)年5月22日、7月25日、26日の3日間で悉皆調査を実施した。対象地区をさらに3地区に分け、それぞれ2名もしくは3名の調査員が担当し、地区中の建築物のうち、近代建築物である可能性があると考えられるものを記録した(図1)。候補とされた建築物は、合計366件であった。また、昭和33(1958)年の住宅地図(表1中の2)と平成25(2013)年の住宅地図(表1中の3)を比較した。名称や所有者が同じであり、近代建築物である可能性が高い建築物は163件であり、それらの建築物の用途を図1中の表2に示した。さらに、個々の建築物については、天草の郷土新聞である「みくに新聞」や建築物の所有者への聞き取り調査によって情報を収集した。

表1 天草市本渡地区に関連して収集した地図(1~3を主に調査で使用)

|    | 地図名                 | 著者/発行者  | 発行所            | 発行年/月    | 備考                               |
|----|---------------------|---------|----------------|----------|----------------------------------|
| 1  | 景勝 天草新地図 附本渡町略図     | 吉見教英    | みくに社           | 昭和11年2月  | 5と同じシリーズ                         |
| 2  | 本渡市住宅案内図            | 住宅案内刊行会 | 住宅案内刊行会        | 昭和33年11月 | 天草アーカイブズ所蔵                       |
| 3  | ゼンリン住宅地図 熊本県天草市[本渡] | ゼンリン    | ゼンリン           | 平成25年3月  |                                  |
| 4  | 本渡案内                | 米田弧庵    | 天草報知出版社        | 大正6年5月   | 天草アーカイブズ所蔵                       |
| 5  | 天草新地図 附本渡町略図        | 吉見教英    | みくに社           | 昭和3年11月  | 1と同じシリーズ                         |
| 6  | 本渡町勢概要              | 不明      | 本渡町役場          | 昭和4年4月   | 同じ版の地図                           |
| 7  | 本渡町案内               | 吉見教英    | みくに社           | 昭和4年6月   |                                  |
| 8  | 天草 本渡               | 本渡観光協会  | 澤田文精社          | 昭和10年代   | 鳥瞰図                              |
| 9  | 雲仙天草案内              | 不明      | 九州商船三角出張所      | 昭和10年代   |                                  |
| 10 | 天草国立公園              | 不明      | 本渡市・本渡観光協会・双葉会 | 昭和30年代   |                                  |
| 11 | 天草郡 観光商工業 明細図       | 不明      | 不明             | 昭和30年代   |                                  |
| 12 | 国立公園 天草案内図          | 皆山武志    | 交通案内社          | 昭和38年1月  | 8, 9, 10は同じシリーズ<br>10, 11は類似した地図 |
| 13 | 国立公園 天草案内           | 皆山武志    | 交通案内社          | 昭和41年10月 |                                  |
| 14 | 国立公園 天草案内           | 皆山武志    | 交通案内社          | 昭和47年1月  |                                  |
| 15 | 観光ドライブマップ 雲仙・天草     | 不明      | 和楽路            | 昭和44年10月 |                                  |

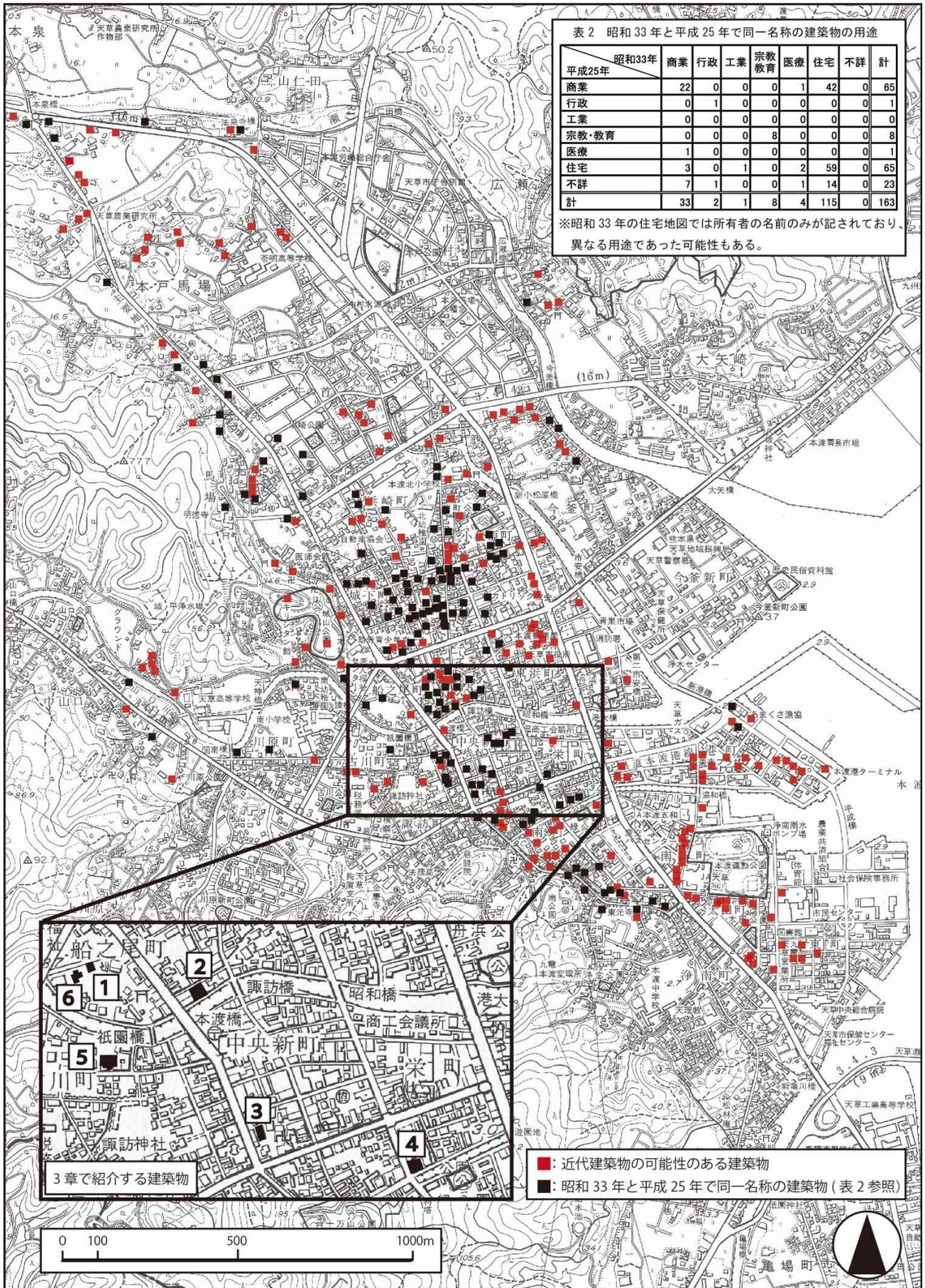


図1 天草市本渡地区における近代建築物の可能性のある建築物の分布<sup>3)</sup>

### 3. 本渡地区における近代建築物の詳細

『熊本県の近代化遺産』<sup>1)</sup>と『熊本の近代化遺産[下]』<sup>2)</sup>で紹介されていないみくに社、誠文社、いと湯、やまみや旅館ならびに興亞寮を新たに紹介する。なお、興亞寮は現存していないが、戦前期には天草教育会館本館とみくに社の間に建つ重要な建築物であり、「みくに新聞」から新しい情報を得た。また、梶原産婦人科病院についても新しい事実を得たので紹介する。

#### 3.1 みくに社(図1中の拡大図の①、写真1~3参照)

みくに社は、出版社として大正12(1923)年1月15日に天草の郷土新聞の「みくに新聞」を創刊したことに始まり、創立15周年記念事業として新社屋を建設した(S11.12.20付。以下、この表記はみくに新聞の記事の日付を示す。)。総工費は4,500円で、そのうち4千円余りは約350名の読者などからの寄附であった(S12.12.20付)。敷地面積は約180坪で、田地を埋め立てて建築を行った(S12.05.20付)。竣工直後の昭和13(1938)年1月20日の記事によれば、原案設計者は創業者で、社主である吉見教英氏、製図と工事指導は社友である箱田武雄氏、施工者は千原組(千原万五郎氏)であった。起工は昭和12(1937)年9月10日、竣工は昭和12年12月31日であった。建築物は「木造平屋建洋式小屋組」で、面積は「本館部19坪7合7勺、工場部37坪8合5勺、物置3坪7合」の合計61坪3合2勺であった。竣工時の外観は、「壁面本館白色リシン仕上、工場下見板張ペンキ塗装、屋根オレンヂ色洋式瓦葺」であった。また、本館は「北面して明るく東方に応接兼社主室を設け」ていた。

現在は堀田循環器内科として使用されている。聞き

取り調査によれば、昭和50(1975)年4月に開業したが、その際、ほとんど改築していないとのことである。旧みくに社の社屋は、昭和12年5月20日付のみくに新聞に計画図として正面図、側面図、平面図も掲載されているなど建設当時の様子がよくわかり、なおかつ現在も使用されている貴重な建築物である。

#### 3.2 誠文社(図1中の拡大図の②、写真4参照)

聞き取り調査によれば、誠文社は現社屋の竣工時から現在まで続く印刷会社で、建築主は富田かつみ氏という天草の建築学校の先生である。竣工年次は明確ではないが、みくに社の吉見氏の「同業の先輩たる誠文社社主富永喜栄氏」(S3.09.25付)が初代であることから、少なくとも昭和3(1928)年以前の竣工と考えられる。木造2階建てで、2代目のときに改築した部分はあるが、正面の工場はそのままのことである。なお、当時は「誠文社をはじめ印刷業者は大抵船の尾濱田方面の町山口川北方に集ま」っていた(S4.09.20付)。そのうち現存するものは誠文社の社屋のみと考えられ、昭和戦前期の様子を伝える貴重な建築物と言える。

#### 3.3 いと湯(図1中の拡大図の③、写真5参照)

聞き取り調査によれば、いと湯は大正13(1924)年から平成11(1999)年7月31日までの78年間は銭湯として営業しており、天草では最初で最後の銭湯であった。開業当時には繭工場が近くにあったので、絹糸の「いと」から「いと湯」と名付けられた。建築主は初代の川内平次郎氏で、建坪は約40坪とのことである。外観は当時とほとんど変わらず、屋根も本瓦葺きのままである。入口付近には繭の形をした噴水があった。銭湯であった当時の浴室は男女湯ともに中央に楕円形の浴



写真1 みくに社 (2014年)

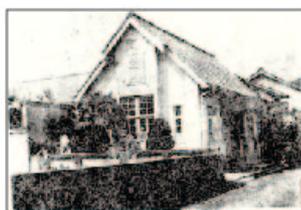


写真2 みくに社 (1974年)<sup>4)</sup>



写真3 みくに社  
(1938年 みくに新聞より)



写真4 誠文社 (2014年)



写真5 いと湯 (2014年)



写真6 やまみや旅館 (2014年)



写真7 梶原産婦人科病院 (2014年)

槽と4分の1の円形の浴槽があった。浴室の両側の壁際には「上がり湯」があり、壁の絵は富士山と松であった。脱衣所には番台の両側の扉から入り、男湯と女湯は中央を鏡で仕切られていた。番台の下には10人ほど入ることができる防空壕があり、今も残っている。

平成13(2001)年からは「おもちゃのかわうち」の展示場として使用されている。開業に際して壁のペンキを塗り替えただけであり、現在も浴槽が残っている。戦前期の銭湯の様子を伝える貴重な建築物である。

### 3.4 やまとや旅館(図1中の拡大図の4、写真6参照)

聞き取り調査によれば、やまとや旅館は昭和10(1935)年に開業した。建築主は現社長の父である山下藤八氏、設計者は現社長の叔父である山下美好氏(棟梁)である。木造2階建の主屋の背後には牛小屋があり、昭和30(1955)年に改築されて、2階部分を客室として利用していた。平成4(1992)年に現社長の母が高齢となり、女中のなり手もなくなったため、旅館を廃業した。その後、平成10(1998)年には改築され、料理屋「茶寮やまと家」として開業した。

### 3.5 梶原産婦人科病院

(図1中の拡大図5、写真7参照)

『熊本県の近代化遺産』<sup>1)</sup>では、梶原産婦人科病院の建築主と建築年代が明確にされていない。しかし、昭和2(1927)年9月25日の記事によれば、「梶原参次郎氏の産婦人科病院は愈々新築なり」とされており、参治郎氏によって昭和2年1月22日に上棟されたと考えられる。また、昭和5(1930)年1月1日の記事には「梶原本家の本館住宅新築」とされているので、この頃竣工したと考えられる。病院は木造2階建、短形平面を有した主屋に平屋建ての手術室が西に突出している。昭和5年には「レントゲン装置スペシャルダイアナ号を据付け、婦人科泌尿器科其他在来の薬物療法や外科的手術に於て治癒し能はざる難病や悪性の腫瘍に之を応用して驚くべき効果を収め」た(S5.08.28付)。なお、病院は梶原参治郎氏(祖父)から猶次郎氏(父)、幸雄氏(叔父)、譲氏と受け継がれてきた。参治郎氏は第3代天草郡医師会館会長(S14.5.20付)を務め、養子の猶次郎氏も昭和13(1938)年に副会長を務めていた(S13.11.20付)。

### 3.6 興亞寮(図1中の拡大図の6参照)

天草教育会館本館の調査報告<sup>5)</sup>では、上級学校入学準備所であった興亞寮はほとんど触れられておらず、これまで詳細は不明であった。「老岐出身の實業家田村貞明氏が郷土への贈物として」(S15.1.20付)教育会館に隣接して建築された。木造2階建て、建築面積は110坪であり、施工者は千原万五郎氏である。昭和15(1940)年10月17日に地鎮祭、翌年1月20日に地搦き(S16.01.20付)、4月5日に上棟式(S16.04.20付)、9月2日に御祓式(S16.09.20付)が行われた。昭和16年8月20日の記事によれば、「玄関を入つて廊下に面し食堂あり其の横押入を隔て事務室、宿直室となつてゐる。食堂の横には炊事調理室炊夫室押入が取られ玄関上には螺旋形の階段で階上に40畳敷の寝室と25坪の教室が飽くまで明るく出来て居る。小便所は東側に下屋作りで取付けられ一般昇降口も東側に設けられ洗面所等も気持ちよく出来て居」た。

## 4. おわりに

本研究では、天草市本渡地区を対象として、できる限り多くの近代建築物を把握するために悉皆調査を行った。また、文献調査や聞き取り調査により、個々の建築物の情報を収集した。今後の課題として、候補とした建築物の中には建設時期が未確認のものも多いためさらに情報を収集し、データベースを作成したい。

謝辞 史料収集と新聞記事閲覧にあたっては、天草市観光文化課文化課 課長補佐 福本英樹様、天草アーカイブスの皆様、天草市立図書館の皆様にお世話になった。聞き取り調査の際には、堀田循環器内科の皆様、誠文社の谷川幸一様、山藤屋の山下國人様、おもちゃのかわうちの皆様にお世話になった。ここに記して謝意を表す。本研究は平成26年度熊本県立大学地域貢献研究事業の援助を受けた。

#### 参考文献

- 1) 熊本県教育委員会編：熊本県文化財調査報告 第182集 熊本県の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告、熊本県教育委員会 1999.3
- 2) 熊本産業遺産研究会、熊本まちなみトラスト編：熊本の近代化遺産[下]、弦書房、2014.1
- 3) 天草市：本渡市計画図、天草市、2000.3
- 4) 井上重利：近代天草百年通史 天草島の年輪、みくに社、p.220、1974.11
- 5) 東城尚美：熊本県の近代建築に関する研究-天草教育会館について-、平成12(2000)年度熊本大学卒業論文

\*1 熊本県立大学環境共生学部

\*2 熊本県立大学環境共生学部 准教授・博士(工学)

Prefectural University of Kumamoto

Assoc. Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.